

県政みたま
扶川敦
あつし
日本共産党



発行
県議会議員
扶川敦
徳島県板野郡
板野町犬伏字
大坪 78-1
Tel 672-5875
2006/12/15

お気軽に
ご相談
ください

談合業者関係者が、知事の後援会役員に

知事の政治姿勢や談合根絶、建設労働者の賃金確保で代表質問



飯泉嘉門後援会美馬支部の役員簿を手に、知事の政治姿勢をたずねる (12月1日県議会)

裁判で談合の事実が確定し、県自身が、談合の損害賠償金1255万8千円を北岡組から受け取りました。その事件の関係者を後援会役員に据える感覚自体、談合に

私は、独自に入手した飯泉嘉門知事の後援会美馬支部の役員名簿に、北岡組等談合事件で刑事罰を受けた業者の関係者が5人も名前を連ねていることを指摘しました。

「知事としての規範意識に合致するのかわ」と迫ると、知事は「各業界から様々なご提言をいただくことと選挙後の癒着構造とすることは別次元」と答弁。しかし、この事件は

飯泉知事の規範意識が問われる 重大な問題ではないでしょうか

12月1日私は、日本共産党の県議団4人を代表して質問。「県政をチエックし、無駄を無くして県民の暮らしを応援する施策を提言する」という立場で、飯泉知事の政治姿勢、談合根絶問題、建設労働者の賃金確保、負担が急増した障害者への支援、県立高校の未履修問題などを取り上げました。一部をご報告します。

県が発注する公共工事の落札率は、確かに総額で見れば、大きく下がっています。しかし、下図①のように工事事件数で見ると、95%前後の高落札率があるかわらぬ多いのです。全国ゼネコンが昨年末に行なった「談合決別宣

延びています。

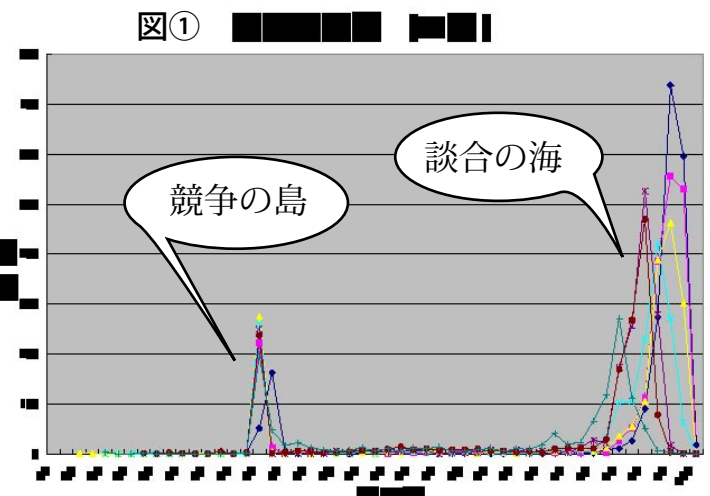
対する甘い姿勢の反映ではないでしょうか。現に、文学書道館の問題では、刑事確定記録で談合が明らかなのに、私達が再三要求しても、県は損害賠償請求を拒否し続けました。その後、県にかわってオンブズマンが起した裁判の結果、「和解金」6500万円を、関係ゼネコンから仕方なく受け取るという、情けない対応でした。

汚職問題調査団は、高落札率のグループを「談合の海」、低落札率のグループを「競争の島」と呼びました。私が、両グループにどんな違いがあるのか、「条件」の違いを調べると、高落札率のグループは、入札参加

「条件付き一般競争入札」でも、「指名競争入札」と同様、高落札率の部分と低落札率の部分に二極化することがわかりました。

私は、県が公開している千件余りの平成18年度の入札データを整理。代表質問とその後、県議会経済委員の分布がどうなっているか分析しました。すると、知事が談合防止の柱に据えてきた「条件付き一般競争入札」でも、「指名競争入札」でも、高落札率の部分と低落札率の部分に二極化することがわかりました。

一般競争入札は地域限定で骨抜き



業者の地域限定により、参加可能な業者数が20社以下と少ないのたいし、低落札率のグループは、40社以上と多いことがわかりました。つまり、業者指名をやめて誰が参加するか事前にわからないような一般競争に、募集中でも、募集条件を事前に公表するために、参加可能な業者に見当がつき、その数が少ないと談合が可能になるのです。実際、今年度11月までに県に

「以来、大型の工事で落札率が下がったために、総額で下がっているだけです。県発注の予定価格5億円以上の工事の落札率は、平成16年以前はすべて平均95%〜97%であったのに、今年度は69.4%に急落。談合決別宣言以前は、大半談合であったと告白したようなものです。寄せられた談合情報8工事のうち、1件は一般競争入札の工事でした。ちなみに、談合情報はずべて落札する業者名を言い当てており、そんなことは、談合がなければ絶対にあり得ないことです。

建設労働者の賃金確保へ条例制定を

「予定価格一杯の金額では、県の調査が入り談合がばれるかもしれないので、予定価格一杯で入札することはない。」

「談合などせず正規に競争していれば、落札価格が設計金額の95%となるということはありません。」

「私がこの工事で赤字とならないように考えて、落札したいという気持ちで入れ札していれば、入れ札金額は設計価格の70%くらいは金額にしていい。」

これらは、今議会の前に私が徳島地検に申請して入手した北岡組



北岡組談合事件での刑事確定記録を示し、談合の蔓延を指摘（12月1日県議会）

等の談合事件の刑事確定記録の関係者の証言から議場で引用した部分です。

談合せずに競争してもそれなりにもうけは出ます。しかし、もうけが薄くなった分を建設労働者にしわ寄せされたのはたまりません。そこで、代表質問で私は、建設労働組合などが制定を求めている「公契約条例」を県として制定するよう求めました。

これは、積算された建設労働者の賃金や下請けへの支払いが、きちんとされているか行政がチェックできるようにするものです。

県が談合防止に消極的な理由が、建設労働者へのしわ寄せが起ることを恐れているからなのであれば、こうした条例は是非制定するべきでしょう。しかし、県の答弁は

制定に全く否定的でした。談合に関係したばかりの業者関係者に堂々と支援をもらいながら、建設労働者の要求には応えない飯泉県政は、一体誰の利益を代弁して政治をしているのでしょうか。

「臭いものにフタではいけない」未履修や偽装請負の調査に消極的な飯泉県政の姿勢が問われます。

今議会大きな問題になったもう一つの問題が、県立高校で世界史などの未履修があったのではないかとという問題です。私は、10月31日の決算認定特別委員会、県下高校でも未履修があったと断言。12月1日の代表質問では、第三者が確認できるような、各高校から県教委に出されている履修報告を提出せよと求めました。

その後12月8日の文教厚生委員会では、我が党の達田良子県議が、一度も使われてない世界史の教科書を示し、実際には授業していないのに、県教委への履修報告では実施されたことになっていると追及しました。

ら、建設労働者の要求には応えない飯泉県政は、一体誰の利益を代弁して政治をしているのでしょうか。未履修があれば、受験に差し支えない形で補習するなど手だてはあります。問題は、教育者が、当事者である生徒から見れば分かり切っているウソを、平然とつくことにあります。それは、「生徒のため」だと言って正当化できることではありません。代表質問で私は、「信頼関係を言うなら、何より生徒と学校の信頼関係こそ大切ではないか。」と指摘しました。問題を明るみに出すまいとする県の姿勢は、談合や未履修問題だけにとどまりません。今議会私は、県下で相次いだ偽装請負問題を経済委員会と本会議で取り上げ、県下の大企業や誘致企業で正

規・非正規の別など雇用実態を把握すべきではないかとただしまし。しかし、これも県は、「これでは臭いもく批判しました。完全にフタの県政だと言われても仕方がないではないか」と厳しく批判しました。

私達日本共産党は、少数野党ではありますが、世論を背景にした正論はいつか通さざるを得なくなるものだと実感します。

たとえば、私は初当選後、汚職問題調査団が提言していた、①入札制度改革②働きかけ記録制度③公益通報制度④職員倫理条例⑤天下り規制について、実効あるものにせよと、総務委員会や本会議の質問で、再三主張してきました。

その後、「威圧的な言動を伴う県職員への働きかけは記録する」「公益通報窓口を外部の弁護士に委託する」「天下り職員の氏名や天下り先を公表する」など、私が主張してきた内容で、一定の改善がはかられました。



県議会議員 扶川 敦

清潔で無駄のない県政へ、世論背景に粘り強く

政治をきれいにするのが無駄遣いをなくします。そして、無駄遣いをなくせば、県民のくらしの予算が確保できます。現に落札率低下で毎年40億円ほどのお金が浮いて来ますが、談合防止で工費が節約できれば、他の公共事業を繰り上げて実施するなど、より多くの業者の仕事が確保できるので

「談合列島」とマスコミに評されるほど各県知事の逮捕が相次いでいます。その背景に、「オール与党化」して知事の監視役を果たせなくなつた議会の責任も大きいと、指摘されています。(12月12日付読売新聞など) 残念ながら徳島県議会でも、明確に野党宣言をするのは、私達日本共産党だけになりました。

2007年新しい年も、清潔で無駄のない県政をつくるためにがんばります。